

み かたむ ひがいしゃ はなし みを傾けたい被害者の話

災害はいつ起きるかわかりませんが、必ず起きますし、その被害もどうなるのかを想定できません。それで、役に立つことは、大きな災害があつてどんなことをしたのか、できるのかを大人の人から教えてもらうことが良いと思います。

なんでもできるわけではありませんが、自分でもできることがあると思います。

じ へんか だいきほ さいがい じこくこく変化するのが、大規模災害

大きな地震や水害になると、目の前のけしきが大きく変わるほど、時間とともに様々なことが次々と起きます。そのために、できるだけ早く安全なところへ移動することが大事ですが、まわりに十分注意することも大事なことです。

ひなんするときには、二人以上で一緒に行動するということも忘れないでください。

え した ちからもち さいがいじ たす (え)んの下の力持ちは、災害時に助かる

災害の避難所では、こまっている人がたくさん集まってきます。小さな子供の相手やおとしよりの話相手になる、あるいはものをくばるというような仕事がいっぱいあります。目立たないけれども役に立つことが、だれにでもできます。そういうことが避難所ではたいへんに助かることですので、こまっている人がいたら声がけしてみましよう。

ひと事でない、よそで起きた災害

日本は災害が多い国ですので、毎年どこかで災害が起きます。地震もそうですが、台風などがあると大水害が起きて大きなひがいが出ていることをテレビで見ることがあります。このような災害は、いつかは自分のところでもあるかもしれませんので、「自分のところで起きたら」ということで学ぶことは、後で役に立つことになります。